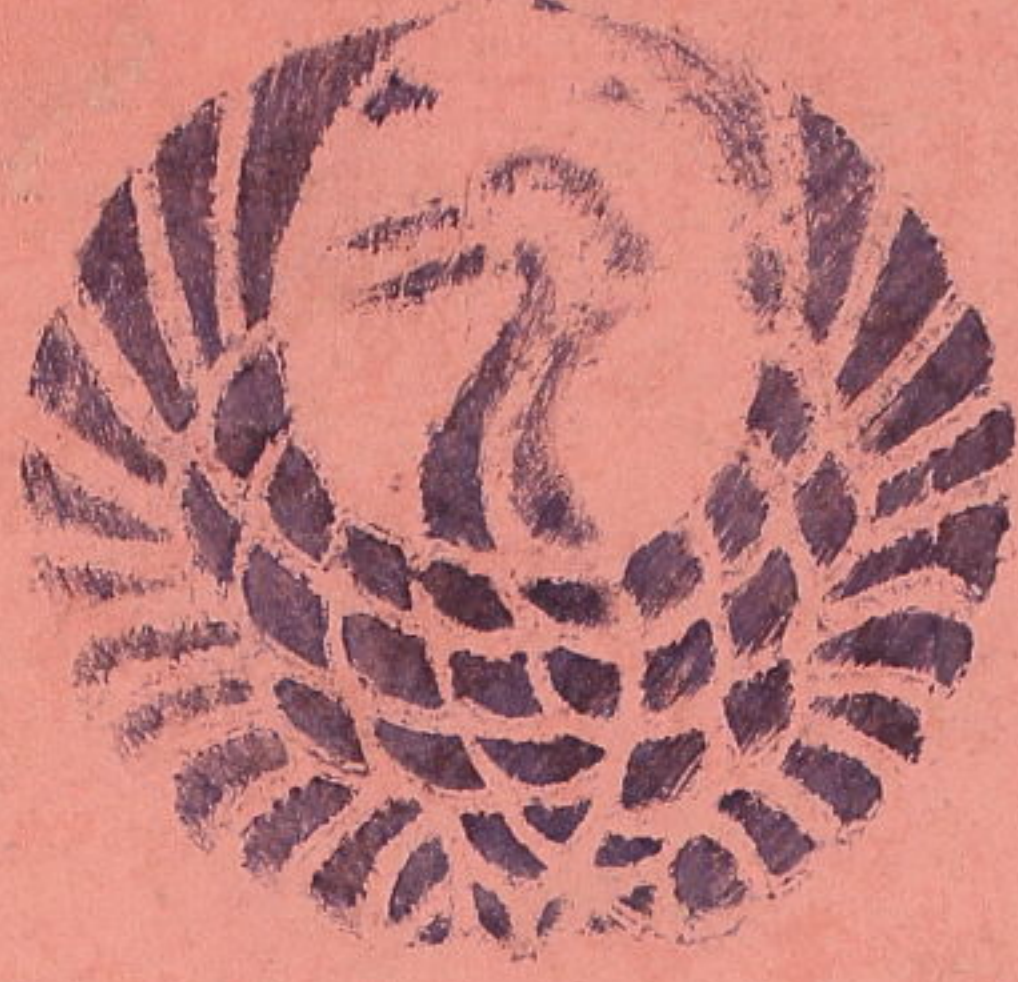




朝夷巡嶋記第八編三



13
704
38



明遠
 號 704
 卷 38



明遠先生著 考條餘事 白紙摺明朝續 八本全四冊 文房賞鑑家必用之書也

題函詩剛全二冊一題函詩選 全壹冊

吳巖先生撰輯 書畫比白宜 白紙摺明朝續 八本全三冊 薄用摺懷中本全一冊

書家必用の小冊諸君子常備案上小備置あるを其摺用率々細念からん詩題面黙と始りて絶句聯句ハ云も更あり數字ハ外平少別號小紙ハ云々其後云々と撰入る漏らる載らる云々此書と撰入る其自在と得ると云々と云々一頁小書と撰入る君子必携し易の珍寶とも可謂小冊あり

書肆 大阪北久寶寺町心齋橋 前川源七郎梓

明治三六年
 十月九日
 購求



朝夷巡島記全傳第八編卷之三

東都

松亭金水編次

續輯第十五

草菴の奇遇源家の族
 道人無為の教と説く

吉見の冠者義邦の夢菴不銜の技折戸とうち園を入りて云々不若僧がまの此方へと案内にと云々を候る方々云々の菴の行入りなる竹と編て井部と云々茅と云々家根と云々畳は云々て簞の破まじは成敷列ね四壁ありけと吹入る風を此不染と云々傍小ふさた如あをえ看るる権子小湯の沸き若僧のまろその湯と汲て列のぬ山路の然こそ困りあひけり咽と濕しあひねと薦むるも歡きうて冠者の喉の乾けるまふ温湯の甘露のぬくふ等と云々二三枕と喫りて彼若僧小

朝夷巡島記全傳第八編卷之三

と大正二年

對ひてし。簡ふ在下と誘ひ。この菴の主ある。名ハ夢基昇し。つら
 すと躬躰をもひてなり。然るも奈何なる人の墓を遊て。不ふひ
 澄して居る。ふ。た。ま。貴く考へて。道とあつて。初て。こと。昔の人の
 いひ。ふ。と。今更思ひ出ら。ま。つ。と。菴ら。の。年。老。と。世。の。甘。さ。と。辛
 と。の。意。満。て。火。の。ち。も。不。扱。と。厭。ひ。と。世。と。避。め。の。性。言。う。る。な。の。不
 も。あ。ん。足。下。の。い。ま。三。十。の。程。あり。と。あ。る。俱。不。浮。世。と。悟。られ。る。
 と。の。く。不。有。雜。さ。善。智。識。不。坐。す。と。う。と。賛。ら。ま。北。叟。咲。宣。と。負。た
 若。年。の。う。才。純。く。出。難。生。死。の。理。と。争。う。情。入。と。あ。ま。と。夢。基。昇。の。在。俗。の
 主人。と。幼。少。の。思。遇。渥。し。殊。不。他。の。く。寤。と。被。り。主人。の。入。る。不。も。ゆ。る。も。
 吾。と。伴。の。い。と。の。と。先。頃。世。と。道。と。の。い。と。と。眠。近。の。士。も。多。う。し。と。と。ま
 不。扱。吾。の。と。如。此。と。思。ふ。と。宣。ふ。と。ふ。よ。は。心。決。ま。る。彼。令。野。ふ。あ。れ

山。の。あ。と。在。下。と。の。伴。ひ。の。人。思。ふ。と。の。心。と。責。て。仕。ま。ら。ん。と。の。ひ。け。ま。つ。の
 赤。心。の。平。生。と。を。ま。す。故。不。汝。の。と。不。告。ふ。然。れ。ば。吾。と。共。不。来。よ。と。主。従。と。怨。意
 び。出。て。種。の。艱。苦。あり。と。ま。と。操。と。易。さ。ま。ら。ね。ば。首。と。刺。て。徒。弟。と。あり。今。目。ま
 傳。副。の。い。と。と。語。ま。の。符。者。の。心。不。然。と。の。夢。基。昇。の。廣。細。と。の。若。僧。を
 加。世。凡。の。め。を。顔。と。餘。所。ま。る。そ。後。の。と。と。問。て。入。と。思。ふ。ま。る
 ち。も。外。面。の。夢。基。昇。の。徐。と。入。来。り。客。人。然。と。待。任。の。め。今。師。の。并。へ。性
 と。の。ハ。曉。の。勤。行。あり。と。要。時。其。処。不。待。ら。ま。る。と。の。ひ。の。符。者。が。對。ひ
 坐。し。と。足。下。と。在。下。と。の。道。と。あ。ま。る。身。ま。る。不。折。り。と。相。見。せ。ず。と。次。女。の
 初。見。奉。の。武。士。の。道。の。愧。と。と。と。も。然。と。ま。さ。奇。遇。と。と。抑。在。下。源。三。位
 頼。政。の。孫。あり。と。武。統。の。太。田。不。世。と。遊。と。多。田。前。司。廣。細。の。陸。奥。の。賊。の。經。任。と。退
 治。せ。よ。の。台。命。あり。則。養。子。光。仲。と。大。將。軍。と。在。下。の。副。將。と。と。奥。不。下。と。

鎮守府^{ちんしゆふ}在城^{ざいじやう}合戦^{がせき}の動靜^{どうじやう}を窺^{うかが}ひ賊徒^{そくと}滅^めびて塔光仲^{たかみつな}凱陣^{がいじん}とすべ
及^{およ}び在下元^{げげげ}未通世^{みとうせい}の志^しハ頻^{しきり}りあるまじく一人^{ひとり}の女児^{むすめ}を遺^{おそ}て世^よを棄^すてて
憶^{おも}ひしる光仲^{みつな}と塔^{たか}とくあせは浮世^{うきよ}不要^{ふぎやう}なり暴^{あや}むらむらとせむら童^{どう}はしを傍^{わらわ}
近く不夜^{ふや}の者^{もの}ふちあきさる加世^{かぜ}丸^{まる}伴^{ばん}へ人^{ひと}を尺^{しゃく}城^{じやう}と出^でて小菴^{せうざん}ふて頭^{かぶ}と山^{やま}あ
ここの所^{ところ}を遍^{あま}歴^{れき}する上野^{じやうの}ある榛^{しん}名の^なの^の憶^{おも}ひも異人^{いじん}ふらひその名^なを
問^とへ乾坤^{けんけん}道人^{どうじん}も太極^{たいじやく}無形^{むけい}道人^{どうじん}より曾^{むかし}て日本^{にっぽん}の隈^{かた}々^々ふ到^{いた}らざる野^のあり一
つひ思^{おも}ひ起^{おこ}しる志^し頑^{がん}と果^はまて止^とむと兒^こと勇^{ゆう}猛^{まう}小^{せう}勤^{きん}行^{ぎやう}はたせ世^よの容^{ゆる}ささるひ
その比^{くら}ひまじ俗情^{ぞくじやう}の失^あやまずく折^やりありは此^{こゝ}と至^{いた}家^けとも興^{おこ}さんと思^{おも}ふ念慮^{ねんりよ}
ありしと年^{とし}と田^たね日^ひと積^つて漸^やく老^{らう}荘^{じやう}の志^しと悟^{さと}りく塵^{ちん}世^{せい}と離^りるより
世間^{せけん}の治^ち乱^{らん}得失^{とくしつ}をふひて一面^{いめん}とり入^いる人の吉凶^{きちきゆう}禍福^{くわふく}と悉^{しつ}く掌^{てい}と指^ささる
まじく火宅^{くわたく}と厭^{いと}ひ果^はたりるふ和^わ主^{しゆ}等^{とう}世^{せい}を遊^{あそ}んで去^いるの城^{じやう}ふ入^いらんとしてかく

姿^{すがた}と更^{さら}むるとのへとのいまの眞^{まこと}の道^{みち}と知^しるわむ俗中^{ぞくぢゆう}の桑^か門^{もん}にて道^{みち}とさ
といふべし。倘^{たう}道^{みち}と果^はるとあは吾^{われ}不^つ能^{ぜい}て修^{しゆ}行^{ぎやう}せよ半年^{はんねん}ふく自然^{じぜん}ゆむ。
所^{ところ}ありん。その説^{せつ}極^{ごく}めて理^りあるまじく道^{みち}人^{じん}不^ふ隨^{ずい}從^{じゆう}て存^{ぞん}在^{ざい}と究^{きゆう}むる不^ふ実^{じつ}
小人^{せうじん}向^{むか}世^{せい}の昇^{しやう}勢^{せい}ハ浮^うめる雲^{うん}不^ふ異^いありん。今^{いま}の世^よの神^{かみ}漸^{ぜん}ふ困^{くわん}るまじく
ねと。藝^ぎは厭^{いと}ふまじくの曉^{あき}まら然^{しか}るふ尚^{なほ}ふりみめ。道^{みち}人^{じん}ハ足^あつて道^{みち}
まぬ因^{いん}縁^{えん}ある者^{もの}ありん。危^{あや}難^{なん}のありん。頼^{たの}家^けハ心^{こゝろ}を用^{もち}ひらるるをた人^{ひと}ら
神^{かみ}機^き妙^{めう}算^{さん}雲^{うん}と呼^よび風^{かぜ}と起^たり鬼神^{くわんじん}と役^{やく}使^しするとあり。そのま自^{みづか}ら
の眞^{まこと}物^{もの}と決^{けつ}らるとあるまじく。疾^{やく}のまを道^{みち}人^{じん}ら譚^{たん}とせむ。今^{いま}躬^{こん}名^な稱^{じやう}とありん。少^{せう}く
語^ごもあて義^ぎ邦^{ぱう}ハ地^ちあり。然^{しか}るまじく推^{おし}せむ。今^{いま}躬^{こん}名^な稱^{じやう}とありん。少^{せう}く
遊^{あそ}ぶ額^{がく}著^{しやく}。依^より廣^{くわう}網^{わう}大^{だい}人^{じん}ら。宣^{のたま}ふて經^{きやう}任^{にん}滅^{めつ}び凱^{がい}旋^{せん}のありん。大^{だい}人^{じん}ハ一
首^{くび}のまじ遺^{おそ}す。世^よを遊^{あそ}んで光^{ひかり}仲^{なつ}ハ及^{およ}ばず。朝^{あさ}夷^い義^ぎ未^み考^{かう}その所^{ところ}の

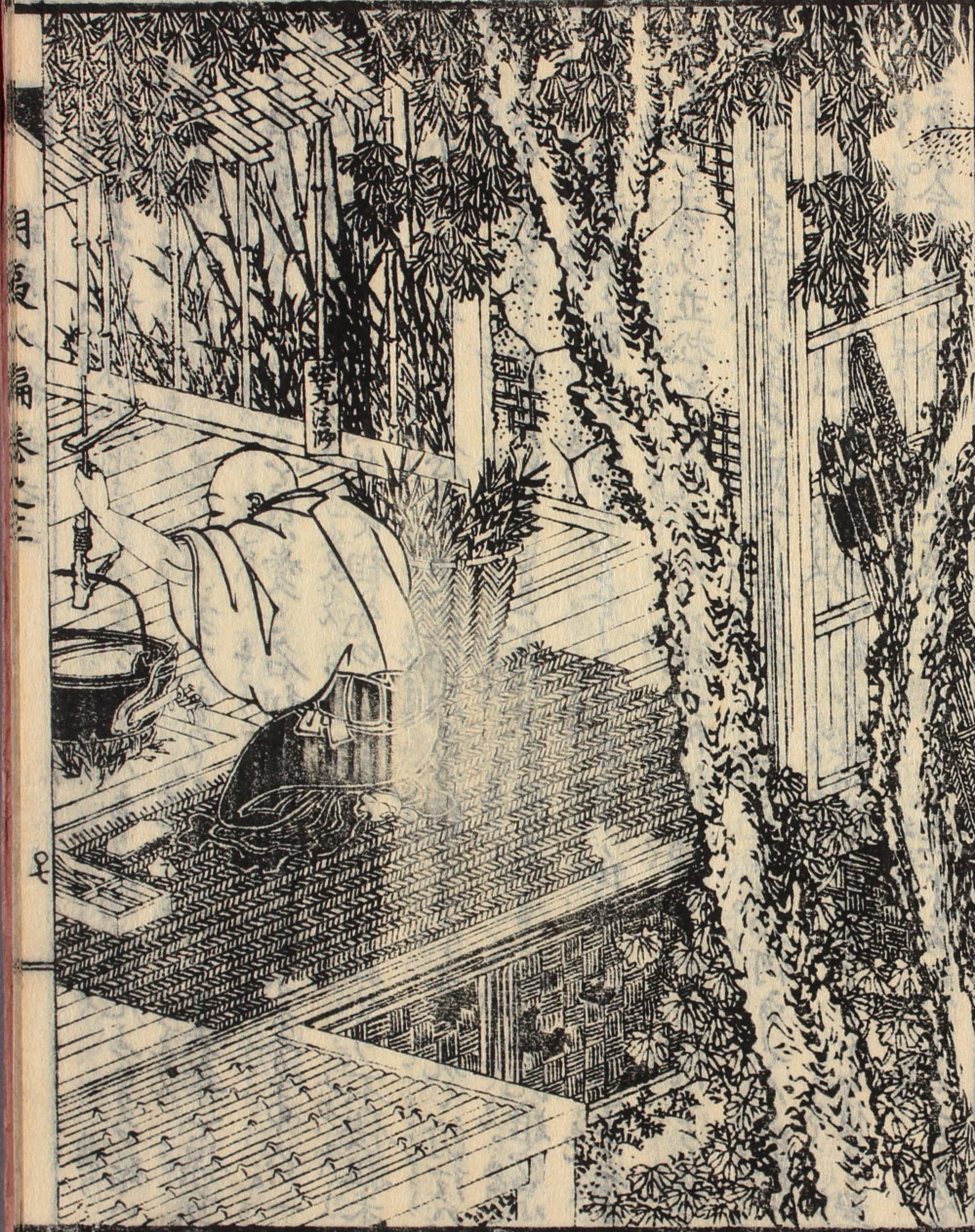
朝夷ハ編卷之三

決士かまうす在下これにまも心と痛め手と頷うなづくは性方と探せりさぐて聊ちやうの手
 掛りの夫それより後の東西の疆さかいも知られぬし歎なげくさうて詮せん方かたあり夫それより死
 人光仲ひかりのちゆうあひ在下これにまも容ゆるみ鎌倉へあせ処ところ箇様このやうとの厄難やくなんありて脱だつれ
 鋼こせりしも我われ秀ひでが朋友ともの信まこととて授まかけり一伍いちご一什じつの長物ながもの結むすばりくとも
 彼のひと光仲ひかりのちゆうと拾ひろひ吾われ此この細こまやう結むすりし初はつて在下これにの武ぶ秀ひであり石戸いしどの莊むら
 と充み行ゆいと近ちか曾そう入い部ぶせ処ところ如此このやうとありと今日けふ日ひあつたまを物ものとてまは度ほど
 いは果はて吾われその初はつより山野やまのの家いへと人の交まじりてあつたまを空そらうく風の役やくも
 夫それ等らとあるとありし師しの乾坤けんこん及および人の交まじりてあつたまを將軍しやうぐん家の暗くら
 弱よわありまも北條きたじょう家の伎わざ師しあり脱だつれし不及およびしと結むすりしあひしが今いま足
 下の物語ものがたりと一ひと点てんも差さりしを合あせり師しの一室いつしつも出ですしと箇この計けいりのことありと
 まうの上の実まこと小こ當世とうせいの神仙せんせんとまも足あし下したの火ひ害がいと未ま然ぜん小こ察さつ知ちとあつと

まも其その髪かみも差さひありてまう頃ころもまて見み奉ほうしの後ののとも向むかへしと義邦ぎぱうと
 誘いざなひしとまち出でるとのまのま白しろと明あきらりしとまり初はつて夢ゆめ覺さずし案内あんない小こより傍かたり
 着きのまちまり徐ゆるとまち出でるとのまのま乾坤けんこん及および人ひとをま道服だうふくすのまのま癩かひひも
 一ひと條じょうの杖じやう携たづなえ鶴つる髪かみかつてま白しろ銀ぎんの針はりのま実まこと小こ寿じゆうの百ひゃく葉は小このま花はな
 うとまりまま童顔どうがんであつてその容貌ようぼう教しやう麗れい多たり冠者かんしやへまりまり貴きさ小こ拜らいせんと
 まるそのまのま捕とらへまるま上かみ木ぎ小こ居いの道人だうじん未ま坐ざ小こ體たいとまてま在下これにの君きみの
 父ちち蒲殿はうでんのま内うちかつて三さんの者ものとまりま當麻たうま太郎たうらうの弟あにあつて在俗ざいぞくの名なの當
 麻たうま次郎じらう房光はうかうとまりまあつてまのま脱だつれし故殿こくでん北條きたじょう等ら好この殊との魂たまふまりま寛かんに
 被かりまひまとまりま兄あにあつてまのま太郎たうらうのまもまてまそのま虚実きよまこととまりま俱とも小こ傷やうとまり
 宮中の床みやちゆうのとこ小こ忍しのびま家いへ小こ便宣べんせんとまりま寂しやくへまりま江え間ま義時ぎじ小ことまりま出でてま脱だつれしと
 稟りやうひまとまりま下したの局きよく住すみまとまりまあつてまのま幸さいひまりま小こ疾やくとまりま免めんれし蒲殿はうでん

伊豆の修禪寺小蛭居とあり。この故郷と迷ひ出熟世間と観る。人の
 禍福榮辱ハ善悪の東小あり。時の幸不幸のこころ。今より仕へ妻お
 名の揚家と興さん志と播。さるの境不控をん。かひ祭て出家とあり。種
 の苦行を道と修する。この人々。元来浅智鈍才。故動す。世利小
 曳と胸中不粗惑ひ。生て困て自躬滅め。或異人小従ひ。修す
 二十餘年。今漸く六通とゆ。世東の浮沉治乱興廢居る。こと。或
 及び。のち。聖世火宅とある。今法師小あり。修験小あり。性考の役
 優波塞が比ひ。と神佛儒及小偏ら。乾坤とて。家とあり。山川と七
 と。勝地不控ひ。无为と樂しむ。然も。年土の演習王位と免れ。因
 四海の无多と。必ひ世東太平る。えと。縁ふ。然も。頃北條氏日未小倍と。好
 小乘り。既小主家と。願けて。吾家と富まん。故小君ハ蒲殿の正小嫡と。と

りて。忘かり。と蛇蝎の如く。事あり。假託て。女のふる。と。君ハ温厚
 篤実と。幸の名と。す。不あり。と。世の人口と。憚り。と。這回石戸の寒郷と。食
 邑と。と。一ハ連枝の好と。表し。ハ君小安堵せ。め。と。その心と。和めん。と
 なる。と。尾原が。好縁あり。然も。小宮小四郎弘義縁と。石戸小望と。あり。と
 必ひ。中意と。失ひ。北條氏小歎歎。北條小密と。示し。若義邦と。失ひ。その遠
 疎ハ。その子。童次秋弘小賜らん。と。小君小宮小四郎君と。圖と。勤と。遠
 田竹塚と。ハ。不小住む。陰陽推歩小名と。ゆ。修及院酷残ハ。昔の安倍の
 晴明と。越の國の大徳と。稍亞と。法所と。佛と。究む。りの故。小。こ。小金浪
 資助と。與へ。君と。咒祖せん。と。憑む。酷残。その利小眼。瞑と。神符と。君が床
 小埋と。五體と。す。小做さん。と。す。と。邪ハ。正小勝と。難。と。固。且。小。恙。あり。と。竟
 小。邪。術。の。為。小。身。と。失。ひ。あり。と。吾。と。の。と。疾。より。曉。り。既。小。後。念。小。在。す。



目録八編卷之三

♀



よ
邦

一睡の間は義邦
歡樂と極む

朝夷八編卷之三

あまを君もその奸謀不慈をまんをの一人あり。嗚呼危あいなる始い
今不佞が初不随ひ。公の境に人あり。身不終く天年と保ち
且子孫連綿とせん然つて恩愛と名利不羈。俗莖不交ありあふ一
命。暮不縮まり。子孫断絶して祖先の祀り永く絶んと必せり。不佞粗末
然を察す。かまうせども心不更不信用あり。敢て人その説く折は
大くは公の公あり。実ありま。こと信せん。然れども這田の阮雅京
四郎が修道院と園で陥まんとせしと。さあはあはあ。知りぬをを不
ありんとは。並松とく遊老の現。お神仙の種ありて。誰れも思
為まん。か奇恃のあり。思へ。後来のとも。誣へん。如何ありん。狂行
條の糸の纏まり。更不その解。洲をを。黙然とて。居り。い。待り。夢
算不。今先醒の論。大不感。心あり。の。在下。ま。ふ。必。分。も。と

言ひ。人。の。世。不。あ。る。や。妻子従類と思ふ。故の。然る。一。個
莖と避く。公。の。域。不。入。り。とも。妻子従類の。歎。と。を。ん。が。これ。も。思
雅。然。ま。ど。も。傳。へ。る。衆。生。と。齊。度。の。為。も。未。代。法。祖。と。ま。り。これ。の。僅。不
成道。の。人。も。衆。生。と。齊。度。の。為。も。未。代。法。祖。と。ま。り。これ。の。僅。不
身。も。易。く。過。る。の。公。也。更。不。世。界。不。益。も。ん。を。武。門。不。生。る。者。の。弓。馬。と
家の。藝。も。子。孫。の。命。と。忘。ま。す。妻子。と。忘。ま。す。と。征。天下。も。必
清。ら。る。宸。襟。と。休。め。奉。り。志。と。ひ。る。とも。丞相。太。保。の。職。も。授。り。名。公
挙げ。祖先。と。輝。らす。こと。忠。孝。全。く。若。志。と。得。ら。る。とも。寒。く
潜。り。て。一。湖。と。終。る。ま。の。こと。奸。謀。の。徒。あり。とも。吾。も。獨。を。惜。ま。ん
行。ひ。と。正。志。を。身。の。竹。の。心。と。取。ら。あ。ら。んと。存。ぶ。も。如何。不。ぞ。や。行。は。る。人の。強
論。あ。ら。ば。後。の。ひ。ね。と。ひ。け。も。夢。算。の。成。て。足。下。が。初。極。め。て。理。を。盡。す。

然までもてとまじりて。名利ハ羈ガ人ハら。古昔巢父許由。花も智
 量道德備。の世ハ立雅。らず隱。と初。人ハ貴。一ハ然。はま。あ
 人の志。と不。あり。勸。勸。強。不。誠。も。た。あ。あ。ま。り。已。ハ。脱。不。知。
 る。下。頼。政。の。裔。ふ。て。多。も。柳。宮。の。連。枝。る。ま。と。世。の。景。勢。と。厭。ハ。の。所。
 最。老。の。女。兒。と。棄。て。る。人。が。門。不。仕。ぶ。九。條。の。樂。を。む。所。ハ。酒。食。む。ら。び
 係。竹。管。法。成。ひ。の。妓。と。妻。妾。を。愛。し。ま。る。子。孫。の。栄。や。末。と。人。成。ハ
 莊。嚴。美。麗。の。家。室。輕。狂。の。裊。褥。珠。玉。の。枕。或。ハ。官。位。の。進。む。こ。も。等。の
 他。不。過。ま。ま。と。道。徳。を。修。て。樂。む。ハ。言。棄。て。ぬ。及。ま。ま。は。開。ハ。以。て。深
 曉。今。説。と。も。その。詮。あ。ら。ば。已。と。も。素。凡。夫。多。り。父。子。の。親。と。恩。愛。を。世
 間。の。人。不。知。か。ら。る。ゆ。や。ま。ま。と。棄。る。不。及。び。さ。る。情。ハ。あ。ま。と。り。世。利。不。曳。と。
 碌。と。る。中。不。ま。ま。と。彼。嫌疑。と。稟。不。至。ら。ば。世。先。の。那。光。を。汚。す。り。因。を

遁世の志。先年より頻るまじ。ま。と。不。孝。の。罪。を。忍。ま。と。今。ま。ま。の。果。を。ま。じ。を。
 脱。不。光。仲。と。塔。と。て。世。不。思。ハ。罪。と。ま。く。頼。不。道。ま。り。の。不。こ。と。後。光
 仲。ハ。大。功。あり。て。寸。罪。を。身。あ。ら。す。も。彼。奸。計。不。陥。り。て。已。が。家。誼。を。守。り
 いら。び。と。食。食。ま。ま。の。食。邑。あ。る。太。田。の。莊。と。その。後。不。放。ら。ま。と。り。の。以。茶
 已。が。世。と。道。ま。り。故。之。倘。光。仲。と。諸。共。不。後。念。人。多。り。あ。り。あ。り。何。れ。あ。ら。ん。と。國。の
 今。ん。孔子。も。苛。政。ハ。虎。より。猛。と。宣。ひ。し。ら。も。ハ。み。子。厚。蛇。捕。
 人。者。の。説。を。あ。り。死。を。犯。し。て。蛇。を。捕。ふ。と。以。ん。幸。ひ。と。あ。せ。ら。る。と。酷。吏。ハ。苛
 政。不。遠。ご。う。が。故。之。豈。と。ま。か。人。情。あ。ら。ん。や。足。下。の。ま。と。り。思。惟。と。後。来。の
 无。ろ。と。國。ま。ま。の。畢。て。然。然。と。當。下。乾。坤。及。人。ハ。東。窓。の。日。教。を。ま。
 貴。客。定。め。ん。勞。ま。ら。ん。人。ハ。空。腹。あ。ら。ん。と。察。し。ま。ま。と。り。今。ま。ま。と。り。不。及。ハ
 の。損。飲。と。進。ら。せん。不。ま。ま。と。り。且。く。甘。と。ん。勞。ま。と。り。懃。め。ら。ん。と。後。る。

箱のうちより。粟辨をど難へ。穀物と把平。加世九法師不分明て是を
炊くもの回ふ道人の夢。莽と伴ひ何すの行と修をとして一回の纏ふ
けま。冠者へて一個ふり。言葉敵あふ。精不渾似の芳とて言ふ。
吾不のあふ。回睡し。加世九法師をとり。彼より余と持出
者。が資ふら著。不冠者へて。えか。老く。時の回不熟睡せ。か
一晌なりて過。ふ。疾熱せう。快不眠。揺起さん。行
得。加世九法師の曲突の傍不書。披。之。附念
其折。冠者の暴不声と揚。嗟苦。と叫び。眼と入。四
祝。いと猜疑る。面持。加世九法師の。不。書。て。か
冠者と看。つ。心地の悪。と。冠者の。胸
沈めて吐息。吐き。復。息。加世九

法師ハ膝と進め。物不魔。り。修道院。が。邪。と。辛
ま。不。遭。心。不。深。く。夢。多。く。冠者。の。心
あ。い。も。不。測。の。夢。と。う。実。不。頃。刻。の。回。人。生。百。年。の。栄。枯。と。場
ら。向。不。道。人。が。懇。不。示。の。人。と。凡。俗。の。生。と。半。信。半。疑。の。今。後。を
奮。の。不。の。粗。悟。や。ぬ。つ。不。一。期。の。歡。樂。榮。耀。の。水。上。の。不。育
ま。ま。朝。露。の。果。敢。あ。れ。不。哉。と。歎。息。に。加。世。九。法。師。の。心
嘆。より。開。か。ま。ら。る。夢。と。う。人。の。苦。う。ず。の。頓。と。悟。り。嘆。息。と。う。
炊。ま。さ。る。飯。と。進。む。冠。者。の。法。師。不。一。礼。と。ま。が。を。飯。と。味。ひ。畢。り。ま。る。夢
物語。長。や。う。と。は。ね。う。と。妙。の。傍。不。身。と。傍。せ。り

續輯第十六

邯鄲の草菴の夢語
石戸の旅寓家族の歎き

然も小町が面づの多しを年の積まうと御しりて今更不疑ふり
 也。孰かありふ彭祖が寿八百歳の鳩の期あり。千年の松のつらねはる
 願つら老に死なぬ。某あふ索めん。とふ至て凡俗の情態と現し。索
 めんとするふ容易う。とふ一人の道士あり。その名と徐伯と。その名と吾も
 茶と索むると。彼の法を授けんと。吾拒むると。と問ふ。閑室ふ伴ひ
 人と遊て君の貴。と。え。何れと。と。容易し。然れども。と。
 味得が。た。品のゆるり。這の君が日未より。最愛の女子と殺し。その生血
 雜ゆ之を妻妾ふ限らんと。吾はて一人の妾と殺す。難さ。不あ。と。
 ことを為の不仁ある。と。い。ま。と。心と決せ。と。然る。桂。の。の。と。何。と。
 閑知り。ん。心の中。と。受。へ。最。老の妾。と。の。ば。ま。づ。第。一。の。の。之。謀。計。と。り。て
 の。災。害。と。逃。ん。ぬ。者。と。う。と。已。が。年。未。月。と。か。る。女。子。と。の。不。分。付。て。籠

媛の程より。権臣北條義時と密をなす。の。之。の。ま。の。と。う。に。桂。と。媛
 と。殺。さ。ん。と。い。ふ。と。密。を。流。ま。さ。せ。ら。る。を。何。時。と。も。吾。耳。ふ。入。り。か
 て。真。し。う。と。秘。の。七。人。の。見。の。存。に。と。女。不。心。弛。す。と。昔。の。人。の。の。を。あ。れ。ば
 偽。り。の。計。ら。ま。い。と。思。ふ。不。就。て。箇。が。容。と。所。所。あ。る。窺。ふ。不。怪。し。と。不
 凡。情。も。あり。諸。へ。と。嫌疑。と。生。ま。る。と。行。其。の。容。の。怪。気。も。い。は。月。生。全。偽
 り。と。是。より。渠。と。謀。め。と。也。証。拠。と。る。所。の。あ。ら。ね。ば。と。あ。ま。不。逃。げ。る。と。一。夜
 桂。の。吾。圍。不。建。一。屍。凡。の。外。不。居。ま。と。泣。然。と。は。声。を。吾。行。り。て。何。の。心。不
 悔。ぬ。と。あり。て。か。ら。い。る。と。へ。と。入。す。と。と。問。と。始。め。の。言。ざ。り。が。強。て。回。さ。と。涙。と
 ち。い。い。と。も。賤。ま。く。仇。ある。所。不。あり。と。あ。る。世。の。果。報。あり。て。自。不。二。人。と。い。ふ。死
 貴。人。不。窮。ら。ま。と。の。年。月。不。知。り。と。救。多。身。の。鬼。の。毛。不。あ。る。と。あ。ら。う
 の。心。不。悔。ぬ。と。竹。と。と。帝。悲。し。と。い。は。後。不。竹。の。由。今。宵。限。り。と。と。人。の。胸。中

罪深く死せり。購人他いありとまき。汝然と泣きあがる。當下は心小ぶる。いふ
 よりと義時と。舊媛と忍び逢ふ。粗凡はありあり。心探るるあり。いふ
 その任ふ捨おとすと。這回葉も商筏あり。最愛ある桂女と失ふんともある茶
 家する小桂女。その性伶俐の故。高個が性も景勢と幽入るるあり。今
 と不防に鬱悒あり。堀藤次小密意を示し。失いんと計るる人。桂女年頃
 をせつとて。筐の中より取りて在り。然るに今もを妬しめやらず。その頃暴ふ所
 りて。妬し心を生けさせ。然るにその本の密會のて。不依て起るるあり。その所不良
 の行ひあり。その妨とて。人々を厭ひ。吾鐘を交せる側室と害をんとする。悪逆元
 争ふことと。赦さんや。と怒り。心頭おろし。その翌日。舊媛と吾も小掛て刺
 殺し。その殺ぬ不老不死の茶さ。調ひぬ。その血を把て茶小雜へ。今より後の
 千萬年死せるといふと。あると。と。密夫義時。そのも。小密の指へ。と。宮

中兵と伏せ。失ありんとせ。うらむ。渠そのことと。洩せし。所旁より号し。と。桂女
 あらび。因て便宜と窺ふ。所夫より。毎夜。舊媛の。幽魂。宮中。不現。れて。持と
 の奇怪と。因て。諸山の。高僧。お。その。祈り。と。命。せ。ら。れ。と。う。り。く。小。立。本。と。す。
 終小桂が。咽吐と。啖ひて。彼と。殺し。たり。お。そ。の。い。ま。ご。飽。足。ら。ず。や。その。産。ま。す。不
 子。その。除。胎。腹。の子。孫。小。至。つ。て。三十。餘。人。一時。小。死。せ。り。吾。大。樹。の。任。小。登。り。五
 餘年。その。間。更。小。憂。へ。と。見。せ。と。ま。く。歡。び。の。こと。多。う。り。も。移。ま。へ。の。多。う。せ。の
 慣ひ。親族。多く。死。果。て。傷。と。断。京。別。離。苦。綱。小。尽。く。べ。う。あ。ら。び。筐。中。執。念
 と。怨。望。の。資。縁。と。所。為。と。い。り。本。と。推。と。ま。の。義。時。不。起。り。と。禍。ひ。たり。
 然るに。渠と。滅。せ。ら。れ。の。將。憤。と。散。せん。と。密。小。軍。勢。と。催。す。所。渠。逸。早
 く。の。こと。と。あり。暴。小。多。勢。と。促。し。集。め。無。二。無。三。か。う。ち。圍。む。世。方。い。い。ま。う。合
 期。せ。と。在。合。へ。兵。と。防。ぎ。と。さ。や。風。上。小。火。と。懸。り。故。小。炎。小。哽。び。と。



世態を説て
 乾坤道人
 義邦を誘ふ

國家を喪ひ。此と滅亡を至す。初め不障の善より。後大障の惡と致す。
 と天口止觀の要文也。此の心とらるる。古今の人情の弊を免る。此
 一とて。然るに初めより可申あらず。不可申る。中と世間の女。
 及小昇俗の常言不申。无むこと貴人といふ。凡と始めあれ。終あり。
 昼夜長短。毎小消息のる。能えず。固く吾輩の修む所。去る。と
 樂とす。美為一内。榮不誇り。後の悲と。俟べ。と諭さ。と冠者の
 点。及び一那。郵の旅。寓。五十年の榮枯。と曉まる。盧生が故。小彷彿。
 実一期の歡樂。一朝の露の如し。在下。篤と思惟。今より先醒の徒
 才とあり。夢。昇老人と。諸共。世と避んと。容。大。と
 念と断志。業下。某生。再説。小波宮。小四郎。父子の者。小馬。標吉

郎。林原。小池。あり。果。鹿のあり。この。這。屈竟の獲物。こと。大。小
 歡び。逐。近。め。ぐ。ま。刺。笛。と。三。三。次。今日。の。生。憎。不。獵。み。て。と。せ。と。せん。と
 志。さ。る。不。薄。暮。不。及。び。思。ひ。も。か。け。ぬ。獲。物。あり。と。珍。重。する。と。頓。て。列。幸。等。不
 擔。の。せ。と。ら。ま。んと。する。時。小。風。雨。頻。り。不。起。り。け。と。各。兩。具。の。准。備。さ。る。と
 此。の。心。急。ぐ。と。馬。不。鞭。あり。池。出。ん。と。と。り。向。標。吉。郎。の。主。小。の。と。て。在。る
 が。右。不。左。不。心。不。か。で。鹿。の。出。る。小。獵。人。も。せ。ず。と。彼。方。と。顧。み。心。不。是。と。後
 所。小。農。民。們。兩。三。個。喘。と。走。り。來。て。標。吉。郎。が。傍。に。近。づ。き。刀。拵。も。是。酒
 ら。せ。の。心。あり。と。並。松。と。の。小。狗。が。隠。れ。川。を。お。流。さ。と。不。便。と。思
 志。その。往。方。と。ん。と。彼。方。へ。池。の。人。固。く。君。達。が。俟。の。んと。下。僕。們。と。此。と。と
 知。せ。ま。あ。ら。ん。の。ゆ。ゆ。之。程。多。く。刀。拵。の。所。へ。來。の。ら。ん。と。ひ。な。と。標。吉。郎。の
 点。び。て。然。ら。ば。替。ぐ。ら。ん。と。俟。ん。と。い。つ。樹。蔭。小。馬。ひ。と。廻。り。宴。酌。甜。て。あり

ける所ふ曇り空の猶暗く大風さ吹ぬや雨ハ車抽と流まをり不降来
 ぬけまが標吉郎もよ不得休む逢る此方ふ白草のあつりつけれが
 軒下ふ屈もつるふ弘義父子の者その他列卒もこの雨風ふ散
 ころり果て眼も遮る所わ一人一個のあつり。殊も日さ暮果て物の善
 悪も分がさふ雨のまあ頻あり。狩者の何とて初遅まこの雨風降ら
 まて困り果つ在まらん。心も舌もあねども。その路と入辨へま今まを爰
 ふ集ひる。雑人等もとや何方へ。隠ひてその按内と。さまへさあふれが
 心煩ふ焦燥の。更ふその淋と知らず。ま遠近の又の間いふ居と狩
 者が便宜と俟とつど日暮ていその馮心も失入。ま独語て白亭と収
 るてうらふ五十ゆりの老媪一個糸袢居る。標吉郎の声とけ。吾ハ如此の老
 めるが急雨不遭て雑せり。且くこふ宿てんや。とて老媪のちあがり。さこの

辛いものら。去来と此方へらせると。帚とりて板敷と掃まぐり。飲たを
 標吉郎の尻うち掛て。常把水。湯を所と拭ひて。さ温湯と飲。思ひをけ
 ぬ暴雨殊ふ風さ強けま。辛い果て不憶阮介ふるも。又い老媪へ回を
 らの郷ふ久ま。領主の在ま。この頃吉見さ。ま。領を。ま。及ぶ。その
 内の方。今より永く思ひ。被るべき吾們あり。い。阮介と。さ。先
 緩と雨風の止む間と。舌不俟。ま。ま。荒屋の何進ら。ま。物
 ら。背戸の柴栗二箇三箇。焼て。ま。と。筐の裡より。出。標吉郎
 手と奉て。心る。遣ひ。腹も。你が。如く。昨今。刀称の。入部。あり。ま。土地の。業
 内。さ。今。今日。武人の。勸め。待。金と。せ。刀称と。我。の。こ
 其。人。性。方。と。定。ふ。せ。故。ふ。此。処。を。不。呻。吟。あり。是。より。東。う。辰。巳。の。方。不。隠。川。の
 知。り。あ。らん。その。川。を。越。て。水。下。の。何。と。の。所。を。ま。さ。千。の。道。程。う。知。り。て。あ。ら。ば

教てよ。この老温の首を傾け。隠川より東の方へ入るぬ林原へ。その
 奥の狼溪巖が岡をどくさる。土地の者へ狼の足踏はまぬ魔所
 を作り。狐狸のさうもやしを。天狗も多く栖とる。若遇てかの成りたる
 者の再び帰らず。現怖くまふあり。とまうし。修人作るまふ。誰も彼処の素
 内を。知りたる者のひり。と語らふ。とて再想ふ。俚俗の殊に僅なる。さへ不
 惶怖と。かくと。いひ作る。然るま。土地の人民。浮る。といひ入る。
 らず。冠者の夫若の。と。並松が流る。隨意と。何方とも多く。遊里を
 かの魔所へ入り。頃日の暮。雨風の不憶も。烈を。その帰る。と。路を
 へ失ひ。ひり。の。嗟便。と。さ。胸の。うち。か。く。あ。え。さ
 心へ。あ。ね。ど。更。ふ。その。淋。と。知。る。と。折。日。は。あり。が。再。あり。ふ。と。安。閑。と。此。処。あ。る
 よ。り。ま。が。然。之。立。帰。り。宮。の。父。子。と。も。譚。合。ま。ん。冠。者。も。さ。処。より。引。返。し。と。を

今頃の宮の彼へ。歸り在る。と。思へ。心。急。う。と。と。ある。老。温。下
 暇と。告。げ。し。馬。不。ら。り。綺。里。面。と。お。か。め。く。る。雨。ど。ふ。厭。は。ず。鶯。地
 不。石。戸。不。到。り。小。四。郎。が。彼。不。歸。り。て。容。子。と。同。小。筐。媛。と。初。め。と。一。家。の。者
 ども。倉。聚。り。て。冠。者。と。馬。飼。標。吉。郎。が。彼。方。り。ふ。と。思。ひ。化。へ。媛。の。顔
 へ。さ。す。り。の。標。吉。上。今。歸。り。り。刀。柄。も。汝。と。諸。共。不。飯。り。ま。せ。う。め。何。ふ。と。同。れ
 標。吉。を。処。不。坐。と。て。在。り。ま。と。物。宿。若。く。疾。ふ。の。彼。へ。歸。り。あ。ひ。と。り。と
 と。今。ま。を。心。不。頼。り。も。甲。斐。あ。り。り。と。嘆。息。を。筐。媛。の。ま。ま。の。と。と。暴。ふ
 酸。鼻。餘。の。人。の。右。も。左。も。你。の。刀。柄。不。屬。副。て。あ。る。と。と。か。か。ん。歸。り。の。遅。さ
 とも。然。ま。を。あ。の。思。い。ざ。り。と。皆。の。兩。個。ひ。ま。ま。と。その。性。方。と。知。り。と。後。後。林。内
 へ。知。り。ぬ。ぬ。林。原。と。あ。る。の。と。然。る。怖。く。魔。所。へ。入。り。千。不。つ。も。此。の。上。善。心
 あり。らん。や。あ。ら。じ。今。更。り。も。女。子の。悪。處。と。吟。と。笑。う。と。ね。ど。被。並。松。と。と

吾們が禍ひの端ありしと嘆息を頓て小四郎あつち對ひおん所等ありて古く住む土地の按内いよく知りしん今より馬飼標吉をわが親者か性方索ねて後ねと望て弘義その子董次秋弘を口と拵へその作せぬ及ぶべき然るが今夜陸より殊に風雨の烈りて炬火も滅さるる只呻吟の途方あるん東雲をむむひより人殺し引俱し性方と索ねん易くべし馬飼ぬお活るる老温何の恐怖かいぞ知らねどもこの郷お然る魔をどの有べきの雨あ辛くあつちおん所不恙あるさみの鏡おかけてんる如し心易く思せよと匡媛と慰めて今夜の俱不寝もさす曉と俟にけり

朝夷巡島記全傳第八編卷之三終

照陽高見先生著

續皇朝戰畧篇

全五冊

此書正編、並三行ハル、久シク且盛ナリ而シテ其近世ノ戰略ニ於テハ既ニ卷了リ紙數充ルコト以テ記スルノ能ハス故ニ今般先生ニ乞ヒ新ニ統編ヲ發兌スル所ニ其記載スルヤ文化ヲ開魯西亞人蝦夷地ニ入寇スルニ始マリ亦來大和長防又西東ノ戰ヒ主師東征尋テ依賀台灣ノ諸役及朝鮮江華島ノ捷ニ終リ其中大小諸戰皆將勇士ノ奇勲偉功ヲ載スル無シ即チ兵家必讀ノ書タルハ言フ俟タズ今日開明文化由テ興ルニ所以スル者マタ戰ヒニ出ルハ人尊身ヲ問ハズ有志者ハ此書ヲ閱セル可ラス四方君子幸ニ購求シテ其奇書タルヲ知り玉ヘト云フ

大坂書肆

文樂堂

前川源七郎謹白

右書各府縣下普々書林へ輸出有之ハ間御手寄ニテ御購求下サレ度ハ

